

桜丘

にこにこふれあいプラン

明るく楽しくみんなで支え合う
桜丘校区小地域福祉活動第一次計画

ふれあいネットワーク



桜丘校区社会福祉協議会

ごあいさつ

桜丘校区社会福祉協議会は昭和36年6月に設立され、協働して地域の福祉活動を行ってきました。

発足から半世紀を経た今、日本における家族制度や形態は発足当時とは大きく変わりました。

全国では少子高齢化や核家族化が進み、それらを要因とする様々な事件や出来事が社会問題となっています。

人間関係の密度が希薄となる中、住民同士の支え合い活動をどのように充実させていくかは地域社会にとっては切実な課題です。

桜丘校区でも一人暮らしや老老介護そして認知症など支援を必要とする高齢者や地域から孤立しがちな高齢者が増えています。

これまでもふれあいネットワーク事業を始めサロン活動やふれあい昼食会など地域住民の交流や支援活動に取り組んできましたが、生活のしづらさを抱えた人たちのニーズを本当に把握できているのか、また、対応する活動基盤は十分なのかなどの問題点も明らかになりました。

そこで校区社協では地域の団体や介護施設また行政機関の参画を得て、地域の福祉課題を再点検するとともに単年度の取り組みでは解決が難しい課題に段階的・計画的に取り組むため、今後5年間の基本計画、小地域福祉活動計画を策定いたしました。

この取り組みが、明るく楽しいみんなで支えあう地域づくりの一助となることを心より願っています。

終わりに、この計画策定にあたり、ご尽力いただきました策定委員会の皆さま並びにご意見をいただきました関係者の皆さまに深く感謝を申し上げ、私の挨拶といたします。

平成27年3月



桜丘校区社会福祉協議会
会長 井地 英人

もくじ

ごあいさつ	… 1 p
第1章 計画策定にあたって	… 2 p
1 計画の性格	
2 計画の期間	
3 計画の策定経過	
第2章 桜丘校区の現状と課題	… 3 p
1 地域社会の動向	
2 地域の福祉課題	
第3章 計画体系	… 4 p
1 基本理念	
2 基本目標	
3 実施項目（体系図）	
4 重点実施項目	
第4章 計画の推進	… 7 p
1 計画の承認と周知	
2 計画を推進するための体制	
3 第2期計画の策定	
参考資料	… 8 p
1 策定委員会名簿	
2 策定委員会での協議事項	



第1章 計画策定にあたって

1 計画の性格

(1) 住民発信の行動計画

この計画は、桜丘校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための民間の行動計画です。

(2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、桜丘校区に住む人たちの「生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

(3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉北区社会福祉協議会と協働する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉北区社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

(4) 桜丘校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

2 計画の期間

平成 27 年度～平成 31 年度までの 5 ヶ年とします。計画の期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

3 計画の策定経過

桜丘校区では、地域福祉活動に取り組んでいる関係機関・団体等からの意見を踏まえ、民間の地域福祉に関する計画を策定するため、桜丘校区社会福祉協議会小地域福祉活動計画策定委員会を設置しました。平成 26 年 10 月 4 日に立ち上げた同委員会において、21 名の委員により 4 回に及ぶ協議の上、桜丘校区小地域福祉活動計画を策定しました。(参考資料を参照)



第2章 桜丘校区の現状と課題

1 地域社会の動向

桜丘校区データ

平成26年3月現在

人 口	7,508 人	小 学 校	桜丘小学校
世 帯 数	3,889 世帯	中 学 校	富野中学校
高 齢 化 率	30.4%	公民館・市民センター	桜丘市民センター
一人暮らし高齢者数	459 人	地域包括支援センター	小倉北1
その他社会資源等	市民センター、老健施設、グループホーム、病院、保育所、集会所、公園		

桜丘校区は、小倉北区の東端、門司に隣接し、宮本武蔵顕彰碑で知られる手向山や万葉集にも歌われた企救の高浜をはじめ多くの史跡に恵まれた歴史の里です。

地形的には中央部を南から北へと流れ下る延命寺川を挟んで、平坦地が多い西側と高台で坂道が多い東側とに分けることができます。

校区内には市民センターや幼稚園、保育所、医療機関、老健施設、グループホームなどがあり社会資源は充実していると言えますが、それらの大半は平坦地が多い西側部分に集中しており、利用するには不便な地域もあります。

校区は近年少子高齢化と共に核家族化が顕著で、一人住まいの高齢者や全員が高齢者といった世帯が増えていきますし、近隣の市場や商店の廃業などによって生活上の利便性が失われた地域もあり、高齢者をはじめとする地域住民の一部が買い物難民化していくのではないかと危惧されます。

2 地域の福祉課題（及び小地域福祉活動の課題）

桜丘校区では平成13年よりふれあいネットワーク活動が展開されていますが、福祉協力員など活動者の平均年齢も70歳と高齢化していることや、福祉関係団体の役員が重複・固定化して特定の人に役割が集中するなど、負担が大きくなっています。

このため、次世代の活動者の発掘と育成が急務となっています。

福祉活動を進めていく上での課題としては、地域の基盤である町内会役員の任期が短く、見守りが必要とされる住民の方の情報が共有されずに活動に結びついていないという状況もあります。

65歳以上の高齢者の割合が30%を超え、一人暮らしや引きこもりがちな高齢者が増えてきたことで、高齢者が気軽に集い、世間話ができるサロン開設の必要性が高まっています。



第3章 計画体系

1 基本理念「明るく楽しくみんなで支え合う桜丘」

桜丘校区では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところで、支え合い、明るく楽しく生活できるまちにしたいと願っています。そこで「明るく楽しくみんなで支え合う桜丘」という言葉を計画の基本理念として、計画を推進していきます。

2 基本目標

(1) 福祉を学び合い、福祉の心を育てよう

福祉活動の広報啓発や認知症に関する講座の開催等の福祉教育を通じて、地域に福祉の風土を広げます。

(2) ふれあい交流の絆を深めよう

高齢者のサロン活動をはじめとした地域交流の場所の設置やイベントを企画して、住民間のつながりを強めていきます。

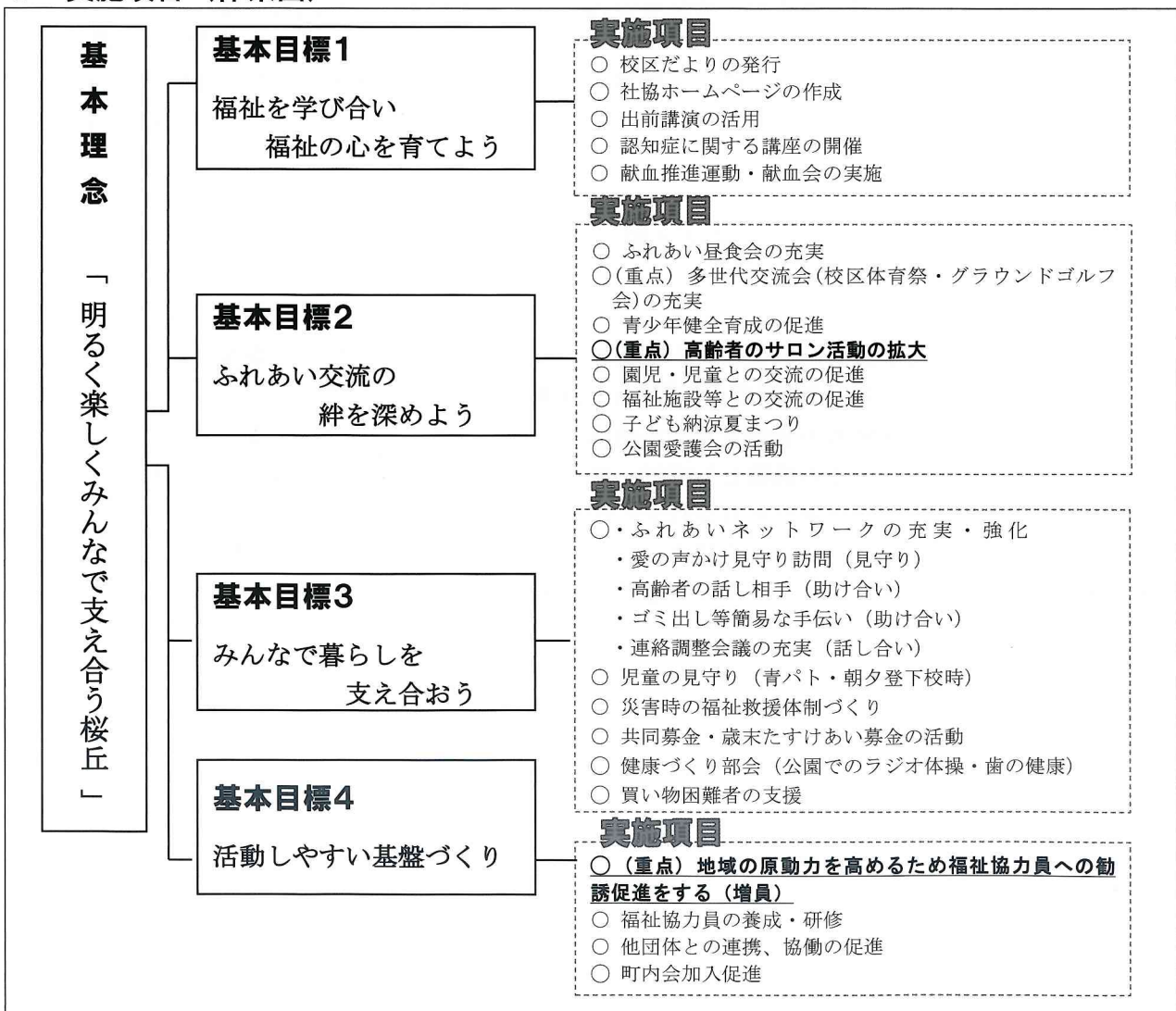
(3) みんなで暮らしを支え合おう

地域住民みんなが安心して暮らせるよう公私の社会福祉関係者と支援の輪をつくり、住民の主体的参加による福祉活動をすすめます。

(4) 活動しやすい基盤づくり

活動者の募集や育成、活動財源の安定的な確保に向けた活動を通じ、地域の活動力を強化します。

3 実施項目（体系図）





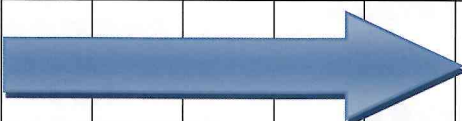

4 重点実施項目

桜丘 校(地)区社協

重点実施項目		高齢者のサロン活動の拡大					
1 課題背景及び地域の現状							
<p>桜丘校区では65歳以上の高齢者の割合が30%を超え、一人暮らしや引きこもりがちな高齢者世帯が増えている。引きこもりの要因として、高齢者が集い気軽に世間話ができるような機会や場所がないこと、また、現在市民センターで開催しているサロンも市民センターが校区の西端にあるため、地域によっては距離的に遠すぎることや途中で急な坂をいくつか越えなければならないといったような高齢者にとっては参加しづらい状況があげられる。</p>							
2 活動の方針・目標							
<p>[活動の方針] 現在市民センターで開催しているサロン(名称:陽だまりクラブ)を校区内六地区に展開する。 年次計画として一年目の平成27年度はB地区にサロンを開設する。 B地区の実績を参考に順次六地区にサロンを展開して、一人暮らしや引きこもりがちな高齢者の居場所を作る。</p> <p>[5年後の達成目標] 各地区(A～Fの六地区)に1ヶ所以上のサロンを開設する。※地区詳細については8P参照</p>							
3 段階的な取組みの年次計画							
取組み内容	連携する機関	H27	H28	H29	H30	H31	備考
サロン運営者及びスタッフの発掘と養成	市民センター 福祉協力員 民生児童委員 PTA・子ども会 まち協・自治会 市・区社協 関係機関						<p>[発掘] 広報紙での公募 友人や知人をスカウト 校区他団体への依頼</p> <p>[養成] 既設サロンの見学 介護施設実地研修 市・区社協研修</p>
サロン開設(B地区)	福祉協力員 B地区町内会						開催:月1回、他地区から参加可能
サロン開設(A、C、D、E、F地区)	自治会 民生児童委員 老人クラブ						開催場所の確保 運営スタッフの確保 運営経費
サロンの紹介とPR	市民センター まちづくり協議会 自治会 校区社協 区社協 ふれあいネット						校区だより(全戸配布) 区社協だより ポスター チラシ(組回覧)



桜丘 校(地)区社協

重点実施項目	地域の原動力を高めるため福祉協力員への勧誘促進をする(増員)						
1 課題背景及び地域の現状							
<p>桜丘校区では地域福祉活動者の高齢化が進む中、若い世代からの活動者を見いだせずに後継者不足が深刻化すると共に活動者が高齢化・固定化したことで特定の人に役割が集中して負担になっており、後継者の発掘・育成が急務である。</p> <p>役員が一年毎に替る町内があるなどの要因によって地域における活動者が定着せず、会長は福祉協力員であるということの周知がなされていない状況がある。</p> <p>近年の自治会離れや自治会加入率の低下は地域活動者が不足する要因の一つとなっている。</p>							
2 活動の方針・目標							
<p>[活動の方針]</p> <p>魅力ある自治会を作って、自治会への加入を促進し、公募や活動状況のPRで活動者を発掘・養成する。 定期的に地域活動者の研修を実施して意識啓発と資質向上を図り、その活動を活性化させる。</p> <p>[5年後の達成目標]</p> <p>自治会長以外の福祉協力員を現在の20人態勢から倍増し、40人態勢とする。 研修によって意識を啓発し、資質を向上させて活動を活性化させる。</p>							
3 段階的な取組みの年次計画							
取組み内容	連携する機関	H27	H28	H29	H30	H31	備考
活動者発掘	市民センター 自治会 福祉協力員 校区社協						募集と勧誘 サロン開設時 校区行事開催時 自治会役員より
福祉研修	市民センター 自治会 区社協 市社協						定期研修 新任者・新人研修 活動者研修
自治会加入促進	市民センター 自治会 まちづくり協議会						魅力あるまちづくり 校区行事開催 PRイベントの企画
活動状況紹介PR 活動者公募	市民センター 自治会 まちづくり協議会 協力団体						校区だより(全戸配布) チラシ(組回覧) ポスター



第4章 計画の推進

1 地域への計画の承認と周知

- ① 校(地)区社会福祉協議会総会等を通じた社会福祉協議会活動者への計画の承認と周知
 - ② 計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼
 - ③ 計画書概要版の配布等を通じた校(地)区住民への周知
- 等、計画を推進していくために、計画の広報活動を行います。

2 計画を推進するための体制

(1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、桜丘校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施

等について、委員会では協議を進めていきます。

(2) 計画の進行管理

桜丘校区小地域福祉活動計画推進委員会を年3回程度開催します（当年度の事業推進の確認、年度内における中間確認、次年度の事業確認、また必要に応じて開催）。委員会では、PLAN（計画立案）DO（実行）CHECK（点検・評価）ACT（改善）というPDCAのサイクルを回しながら、計画内の各実施項目の進捗状況を把握し、うまく進行していない場合には、その原因を明らかにし、問題への対策を立て、その対応策を実施します。

(3) 計画の評価

計画期間の中間時点では計画全体の中間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

3 第2期計画の策定

第1期計画の推進状況を踏まえて、第2期計画の策定期（計画第4～5カ年度）には新しく第2期計画策定委員会を設置し、計画策定に向けて協議を進めていきます。

桜丘小地域福祉活動計画推進委員会委員についてはH27年5月開催予定の桜丘校区総会で選任とします。



参考資料【桜丘校区小地域福祉活動計画の策定経過】

1 桜丘校区小地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

	氏名	所属団体	役職	備考
1	井地 英人	社会福祉協議会・自治連合会・まちづくり協議会	会長	委員長
2	鴨打 敏治	社会福祉協議会	事務局長	副委員長
3	富永 雪枝	社会福祉協議会	会計	
4	原田 亮子	社会福祉協議会	監査	
5	和田 修一	まちづくり協議会	副会長	
6	横内 隆	まちづくり協議会	事務局長	
7	川嶋 洋子	まちづくり協議会	事務局次長	
8	岡田 尚子	民生委員・児童委員協議会	会長	
9	城戸 和美	民生委員・児童委員協議会	副会長	
10	原口 美那子	ふれあいネットワーク	A地区長	※地区詳細については下記参照
11	江口 允子	ふれあいネットワーク	B地区長	
12	下田 昭司	ふれあいネットワーク	C地区長	
13	草津 初美	ふれあいネットワーク	D地区長	
14	前野 宗則	ふれあいネットワーク	E地区長	
15	吉永 愛子	ふれあいネットワーク	F地区長	
16	古賀 怜子	少年補導員連絡会	代表	
17	杉浦 勝代	食生活改善推進員協議会		
18	竹田 千加	食生活改善推進員協議会		
19	堤 光子	食生活改善推進員協議会		
20	古賀 利文	青少年育成会	会長	
21	内野 宏二	介護老人保健施設「桜丘」	管理部長	

※A～F地区詳細（町内会単位）

A地区・・・東団地1・3、赤坂11、手向山

B地区・・・赤坂1・2・3・7、赤坂海岸

C地区・・・八景園1・2・3、赤坂9、富野台、サマリヤ、エメラルド、赤坂県営

D地区・・・赤坂4・5・6、横内町

E地区・・・富野本町1、赤坂8、桜丘アパート、サンモリッツ

F地区・・・富町・富野本町2、昭栄町、NTTアパート



2 桜丘校区小地域福祉活動計画策定委員会での協議事項

回	開催日	主な協議事項
1	平成 26 年 10 月 4 日	1 計画策定に当たって <ul style="list-style-type: none"> ・計画の性格、意義、計画の期間 ・地域での計画の位置づけ 2 校区の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・計画づくりが必要となる背景 ・地域の現状 ・地域の社会資源 ・掘り起こし・整理した地域の課題
2	平成 26 年 11 月 22 日	1 基本計画と実施計画 <ul style="list-style-type: none"> ・基本計画（体系図）の作成 ・実施計画（重点実施項目）の選択
3	平成 26 年 12 月 20 日	1 計画の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・計画の承認と周知 ・計画を推進していくための体制 ・進行管理（点検・評価）の方法
4	平成 27 年 1 月 17 日	1 計画書の作成（最終校正） <ul style="list-style-type: none"> ・計画推進委員会の設置



★社会福祉協議会のイメージキャラクター★

『プチボザウルス』 (Petit vo saurus)



Petit (プチ : ちっちゃな)

Volunteer (ボランティア)

Saurus (サウルス ≡ 恐竜)

桜丘校区社会福祉協議会

〒802-0022 北九州市小倉北区上富野五丁目 6-21 桜丘市民センター内

TEL 093-522-5233 FAX 093-522-5233

小倉北区社会福祉協議会

〒803-8510 北九州市小倉北区大手町一丁目一番小倉北区役所内

TEL 093-571-5452 FAX 093-571-9553

北九州市社会福祉協議会

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町 1 番 6 号ウェルとばた内

(代表) TEL 093-871-4401 FAX 093-882-3579

(福祉部) TEL 093-873-1296 FAX 093-873-1351